○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時４０分）

○議長（稲葉昭宏君）　一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け、質疑を続けてください。質疑は一括質疑と一問一答方式どちらかを述べてから質疑に入ってください。固有名詞等は発言に充分に注意をお願いします。

なお、傍聴者の皆さんに申し上げます。議場内ではお静かにお願いいたします。

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君）　日程第６、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇　藤　井　　要　君

○議長（稲葉昭宏君）　通告順位１番、藤井要君。

（１番　藤井　要君　登壇）

○１番（藤井　要君）　それでは、一般質問を行います。

一般質問を行う前に、齋藤町長、今回の町長選におかれまして多くの方々の投票により再任されましたこと、お祝い申し上げます。

町長は、去る９月に町政においてやり残したことがあるとのことで、出馬表明されたわけですから、やり残したことが度々起こらないよう、今後の４年間を強い指導力と判断力、責任感を持って松崎町発展のためにご尽力いただきますようお願い申し上げます。

それでは、壇上より松崎町の課題と対策について、一般質問を行います。

最初に、まつざき荘の指定管理についてであります。まつざき荘の指定管理契約は平成 26 年３月を以て、終了しますが、町長は引き続き振興公社に業務を委託するとの考えであります。町長の就任後一度として黒字はなく、累積赤字は１億 3000 万円を超えています。

赤字の要因を地震や新東名、スカイツリー等の外部的要因と職員の減少や業務体制の弱体化による内部的要因を挙げていますが、地震の発生による観光客の減少被害はある程度予想できたことではないのですか。

宿泊客減少による収入の減少が人件費のカットに繋がり、優秀な人材が辞めていった。

町長、無策のつけが負の連鎖となったのが今の状態ではないのですか。それでも町長は、この現状を変えようと思わないのですか。

振興公社にこだわる根拠は何か、お聞かせください。

次に、早期黒字化に向けた具体的対策について伺います。町長は、今後３年間振興公社に経営を委託したいとの考えであります。

まつざき荘はグリーンツーリズムの総本山になれる。７大イベントや「日本で最も美しい村」連合とともに歩めば黒字化できるとのお考えのようですが、営業収益、振興公社委託費を平成24年度決算と同額で計上すると、減価償却費や借入返済金の減少により平成34年度に黒字になると試算しています。９年後、その時の累積赤字額は２億9600万円であります。単純計算でありますが、今年度赤字が3000万円としますと、基金・・、いわゆる預金も１年余りで底をつき、27年度からは一般会計からの赤字補てんも予想される状態に陥り、黒字化まで８年間は赤ちゃんからお年寄りまで毎年2000円余りの負担になります。

また、町長は職員のモチベーションを上げるため、従業員の正職員化を考えていますが、建物のリニューアルもやることになりますと、これ以上の赤字負担も予想されます。

町長、これ以上町民の負担を増やさないためにもしっかりとした計画を立て、町民の理解を得るべきだと考えます。

そこで、町長がおっしゃる延長３年間の決算予測と具体的な対策をお示し願います。

次に、棚田、さくら葉、なまこ壁の地域資源の管理、活用について伺います。

私は、11月17日、「やろうじゃ協議会」の有志の皆さんに同行し、棚田、重文岩科学校、町内のなまこ壁通りの見学に行って来ました。見学し、町の売りであるなまこ壁が傷んできている。早く修繕しなければ「日本で最も美しい村」の看板がなくなってしまう。非常に強い危機感を覚えました。

町長は貴重な建物に町文化財への指定を進め、維持や修繕に関わる費用の補助制度を創立したいと述べておりますが、私は維持や修繕にかかる費用の補助では甘いと考えるものであります。なまこ壁を例に挙げると、一般の修理に比べ数倍の修繕費がかかることはご承知のとおりであります。

町が本当に貴重な財産とお考えならば、白川郷の合掌造りのように居住者の生活に不便を来すことは出てきますが、町の財産管理とさせていただく、また、小樽の石蔵の利用のように蔵の内部を利用し、喫茶店など再修繕費用のための資金ねん出など積極的に行うべきではないかと

考えますが、町長の今後の方向性について伺います。

次に、ハーブの６次産業化に向けた取り組みについてであります。

中川のハーブ園はきれいに管理されており、今年はどのくらいの収穫があったのか、どんな新商品が試作されるのか、楽しみながら三聖苑で食事をする時がありますが、最近、陳列してあった商品が見えません。試験販売は終わったのでしょうか。お答えください。

また、平成25年度に新商品の開発費100万円が予算に組み込まれておりましたが、どんな商品が開発されたのでしょうか。サプライズの発表があるのかもしれませんが、楽しみにしていますので、早く発表していただきたいなと思います。

町長は６月の一般質問の答弁で、商品についてのアンケートをいまやっているところだと答えていますが、アンケートの結果を教えてください。

また、公社職員２名がハーブ振興協会の認定講座を受けたと思いますが、香りのまち、松崎の進むべき道をどのような方向にもっていくのか、お聞かせください。

これにて、私の壇上からの一般質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君）　申し上げます。今議会から最初の町長の答弁を今までは自席で行っていましたけれども、今回からは、町長の答弁は演壇で行うようにしますから、よろしくお願いいたします。

（町長　齋藤文彦君　登壇）

○町長（齋藤文彦君）　藤井要議員の一般質問にお答えします。

１．松崎町の課題と対策について。１．伊豆まつざき荘の指定管理について。①「町長がまつざき荘の運営管理を振興公社に委託することにこだわる根拠はなにか」についてであります。

伊豆まつざき荘は平成18年から３年間、平成21年から５年間、松崎町振興公社を指定管理者として指定し、施設の管理を委託してきましたが、来年３月31日が期間の満了となります。

伊豆まつざき荘につきましては、平成21年度から４年連続で赤字が続き、議会全員協議会等では民間企業への委託も含めて議論がされたところです。

これまでの民間事業者からの提案もいただきましたが、私は、現在のまつざき荘をみた時に、正規、臨時、パート職員43名を雇用し、一つの企業誘致と同じ役割を果たしていること、飲食材料など地元仕入に大きく貢献していること、また、グリーンツーリズムの拠点として欠くことのできない施設であり、町のシンボル的な施設であることなどから総合的に判断して、引き続き３年間松崎町振興公社を指定管理者に指定したいと今議会に議案を提案させていただきました。

伊豆の長八美術館など他の観光施設と同様、指定期間を５年にするという選択肢もあるわけでございますが、私の任期中で何とか黒字にしたいという強い思いから、３年間とさせていただきましたので、ぜひともご理解、ご協力をいただきたいと思います。

②「営業収益、振興公社委託費を平成 24 年度決算額と同額で計上した場合、平成 34 年度で単年度の黒字化、累積赤字は２億 9600 万円となるが、早期黒字化に向けての具体策はないのか」についてであります。

伊豆まつざき荘の黒字化の具体策につきましては、これまで議会全員協議会において、町と振興公社で作成した経営改善計画などをもとにご説明させていただいたところでございますけれども、コスト削減と利用者増により黒字化を図っていかなければならないと考えております。コスト削減につきましては、仕入における入札の実施や、企業債の切替による利率の変更により経費の負担軽減を図っております。

次に、誘客方法につきましては、現在取り組んでおります夕食メニューの改善や朝食バイキング、富士山プラン、平日限定一人旅プラン、売店商品の５パーセント割引きを継続してまいります。

また、１月８日・10 日には関東圏の民放３社で放映される「いい伊豆みつけた」の中で、伊豆まつざき荘を取り上げていただくことになっております。

今後は、町民割引制度や平日利用時の割引券の配布、料理の１品サービス、3738 人いる「友の会」の強化やグリーンツーリズム推進事業の展開、エージェントセールの強化などにより利用客の増を図り、早期黒字化に向け、職員とともに努力してまいりたいと考えております。

２.『石部の棚田、塩漬けのさくら葉、なまこ壁の建造物を地域資源として「日本で最も美しい村」連合への加盟が承認されたが、これらの今後の管理、活用は』についてであります。

町は、石部の棚田、塩漬けのさくら葉、なまこ壁の建造物の３つの地域資源に対する取り組みで、10 月４日開催の「日本で最も美しい村」連合の臨時総会において、51 番目の村として加盟承認されました。

石部の棚田は、荒廃していた田んぼを石部地域の皆さんが地域の宝として復田し、現在では、棚田オーナー制度、一社一村静岡運動や静岡棚田里地くらぶによる支援、松崎高等学校サポーター制度「いしび隊」、地域おこし協力隊により保全活動が続けられているほか、石部の灯り、石部の博覧会などのイベントを通じて、棚田に対する理解を図るとともに、都市住民との交流を図っております。

今後も地域、団体、行政等が連携し、保全管理に努めるとともに棚田を含めた拠点施設とし

て、旧三浦小学校の活用についても、県、町、地域・団体で検討してまいりたいと考えております。

塩漬けのさくら葉は全国出荷の７割を占め、日本一の生産地であり、様々な商品が開発販売され、町のブランド品となっております。

しかし、棚田同様高齢化や後継者不足が課題となっており、今後担い手の確保の方策など、官民一体となって検討してまいりたいと考えております。

なまこ壁の建造物は、町内に 210 余りあり、歴史的にも観光的にも貴重な財産となっております。平成６年度から町民のブロック塀になまこ壁を施工する「ナマコ壁技術伝承事業」の実施や平成 14 年度には教育委員会、「海鼠壁のある建物調査」、平成 16 年度からは、「松崎蔵つくり隊」によるなまこ壁の啓蒙、保存活動が展開されています。重文岩科学校や明治商家中瀬邸、伊豆文邸を除き、多くの建物は個人所有であることから、重要な建造物については、町文化財指定や維持、修繕に関わる補助制度についても検討したいと思います。

３．平成 24 年度より６次産業化に向けたハーブの試験栽培、また、試験的販売が行われ、本年度には新商品開発が予定されていたが、新商品の開発状況は。また、６次産業化への今後の課題と方向性は」についてであります。

ハーブの試験栽培につきましては、昨年度におきまして、バスハーブや芳香蒸留水の試作品を作りまして、今年度に入り、試験販売を行ったところですが、実績はあまり芳しいものではありませんでした。

こうした状況の中、需要を喚起するには、まず地元での活用される仕組みが必要であると思います。そのために、料理やスイーツへの利用を含めた活用の仕方を地域の愛好家の意見を聞きながら、進めているところでございます。ゆくゆくは観光とタイアップしていくことがハーブ栽培を軌道に乗せていくことに繋がっていくものと考えております。

以上でございます。

○１番（藤井　要君）　一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君）　許可します。

○１番（藤井　要君）　それでは、再質問を行います。

町長はですね、黒字化に向けた３年間ということは、自分の任期中に黒字化にするという強い意志の表れだということは理解いたします。

それにつきまして、民間からの委託管理をしたいというようなことが出ていると、これはＫ社とＳ社ですか、そして、振興公社の３つになるわけですけれども、町長が黒字化にするという

強い意志があるわけですけれども、私は、町の中を回って歩きますと、もう８年間ですか・・、７年間ですか・・、８年間ずっと赤字の状態で、先ほど私も言いましたけれども、無策の状態ではなかったかというようなことで、民間委託を望んでいるんですよ。そして、Ｓ社とＫ社が名乗りを上げているということですけれども、私たちの手元には何もない、どういう内容でＳ社とＫ社が請けたいのか、そういう資料もなく、私たちに判断しろというのはおかしいんじゃないですか。

議長、資料の提出をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君）　まずは、最初の質問についての答弁を町長の方から。

○１番（藤井　要君）　じゃあ、町長、それに対してお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　詳しいことはちょっと課長の方から後で報告しますけれども、私は、民間の人と話し合ってみて、最初に「仕入はどうですか」と聞いたら、「仕入は全部自分たちの方で、自分たちのルートでやります」と、そして、「町民の雇用はどうですか」と聞いたら、「町民の雇用はしますけれど」という話があるわけですけれども、その話の中を聞いていまして、これは非常に厳しいことになるなと、第二のまるまるになるなと、私は直感的に感じまして、私はまつざき荘は、自分が思っているとおり、これは町内の皆さんが 43 人も働いている、このような小さいところで企業誘致もできないわけで、一つの企業誘致になるんではないかとずっと思っていましたので、民間のやつは、私は全然相手にしていませんというか、聞きましたけれども、私は、自分の思ったとおり振興公社でいくのが私はいいのではないかとずっと思っていたところです。

○議長（稲葉昭宏君）　資料についてのことですけれども、町長、答弁はどうしますか。

○副町長（松本忠久君）　ただいま、藤井議員から要望のあります資料提出の件でございますけれども、確かに、民間企業が２社ほど町の方にまいりまして、担当とか、私とか、いろいろ話を聞いたことはございます。

ただ、まだ正式に民間に発注するとか、協議をするとか、そういった段階ではないわけですので、ある程度メモ的にまとめたものはございますが、こういった場で資料を公表するということについては控えたいと思いますので、その辺はご理解をお願いします。

○１番（藤井　要君）　じゃあ、町長を信じて私たちは判断するしかないということでよろしいわけですか。

26 日に議案提出されますよね、その時には、例えば、すぐに回収してもよろしいですけれども、私たちに見せること、私たちに判断材料を与えるということはできますか。

○議長（稲葉昭宏君）　町長、どうですか。26 日の議案に入っていますけれども、その時にある程度の資料を準備していただきたいという質問ですけれども、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君）　いまちょっと内部で話をしたわけですけれども、それなりの資料は簡単にまとめて提出したいと思います。

○議長（稲葉昭宏君）　よろしくお願いいたします。

○１番（藤井　要君）　町長、ありがとうございます。

それから、Ｋ社は２～３年で黒字、人件費はカットします。Ｓ社は黒字は５～６年後、雇用は維持します。そして、町の観光事業の底上げ、全体的なそういうアドバイスも無償で関与したいというようなことを言っているんですけれども、町長は 26 日に提供するということで、それで私も確認させてもらいますけれども、もう一つ、これは振興公社に３年間委託ということになりますと、３年間の事業計画を提示しなければなりませんよね。私たちがもらってあるのは、伊豆まつざき荘の管理に関する業務の収支計画書平成 26 年度、収入の部は何も書いてありません。合計２億 7250 万円、支出の部、これは振興公社委託費の関係だと思いますけれども、２億 7250 万円、これは収支はゼロになりますけれども、この委託管理費を 24 年度は２億 1600 万円、そして、26 年度が２億 7200 万円、これは約 5600 万円くらい上がっているんですよね。

じゃあ、この場合、いくらくらいの売上を必要とするのか、黒字にはどのくらいの収支が出るのか、わかれば宿泊人員と一緒に教えてもらいたい。

○企画観光課長（山本　公君）　藤井議員の見られている資料は、何を見られているんですか。

○議長（稲葉昭宏君）　暫時休憩します。

（午前１０時０３分）

○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時０３分）

○企画観光課長（山本　公君）　先ほど３カ年でどういうふうに改善していくかということでございますけれども、以前まつざき荘の経営改善計画ということで、こういうふうに進めていきますよという資料を全員協議会等において、私あるいは舩津係長の方から説明をさせていただいたもので、こういう取り組みをしていきますよというようなことは、ご説明をさせていただいているわけですけれども、指定管理の関係の今度出される議案の中に予算みたいなものも当然・・、大体このような形の中で考えていきますよという予算が付いているわけでございます。

今年度平成25年度の時の人数が２万3500人、宿泊がありまして、休憩が5590人あるというようなことの47パーセントという中で、プラスに転じていくというようなことですけれども、現行のところそこまで、先ほどの入込状況のご説明をさせていただいた中ではいっていないということですので、その予算に沿ってやはり宿泊人数を決めていかなければならないと思います。プラスにするにはですね。

25年度の予算がプラスになっておりますので、その人数より少し上乗せした人数を計画していきたいというふうに考えております。現在、いま予算については策定中でございます。すみません。

○１番（藤井　要君）　私の質問した答えになっていませんけれども、ここに26年度の指定管理費が２億7250万円と書いてあるわけですよ。そうしたら、収益はこれ以上ないと赤字になるわけですよ。最低でも。

そして、減価償却だとか、そんなのをやっていくと、例えば、３億5000万円とか４億円近くになる、単純計算でもそのくらいにならなければおかしいわけですよ。

そういうのを見せないで、今年の予定は黒字にしてあります。そんなのはおかしいですよ。３年間を出すのが当たり前じゃないですか。振興公社はやりたいというんだから、３年間の計画を見せるのが当たり前じゃないですか。

そして、先ほど、ここにありますＡ４の、これは40年のまで・・、先ほど私は34年度に1000万円ほどの黒字になる予定になっております。これは、24年度を基準にしてやっているわけですよ。

ですから、例えば、今ですよ、3000万円の赤字ですと、町民１人あたり4000円の負担になっているわけですよ。まつざき荘の赤字のために町民の方の１軒の家に行って、あなたの家族は４人ですから、まつざき荘に１万6000円のお金をくださいよということと結果は同じわけですよ。

それがプラスになれば、まつざき荘がプラスになったから、今年は儲かったから、じゃあ、皆さんの家にごみの袋は１軒ずつ10枚くれますよという、そういう住民サービスの低下とか、そういうのが起こるわけですよ。

○議長（稲葉昭宏君）　藤井君、暫時休憩します。

質問の内容がわからないみたい。

（午前１０時０７分）

○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時０７分）

○１番（藤井　要君）　詳しいことはまた26日にやりますので、その時に。一般質問の時間もありませんので、じゃあ、お願いしたいと思います。

町長、最後に言いましたけれども、１人あたりいま3000万円だと１軒あたり4000円マイナスになるわけですよ。そういうことに対して、町長、サービスの低下を起こしているわけですよね。例えば、健康保険税が、お金があれば、それは上げなくても良かったかもしれません。そういうことに対して、まつざき荘をプラスにしたいわけですよ。私も。だから、いろいろなことを言うんですけれども、その点はどうですか。

○町長（齋藤文彦君）　いろいろまつざき荘のことを言われますけれども、まつざき荘だって、こんなことを言うとあれですけれども、非常に調子が良かった時に、一般会計に２億1000万円位入れているわけですよ。

非常に厳しいからといって、そういう厳しいことをしないで、温かい目で見て欲しいなと思います。

○１番（藤井　要君）　後ろの方で「昔と今は違う」ということ・・、だからといって、赤字にしていいということじゃないと思いますよ。

先ほど言った、サービスの低下が実際に皆さんの所に行って集金しているわけではなくて、一般財源、町税の中でやっていますから、集金に行っていませんけれども、集金に行けば、「なんだ、お前たちは、また今年も赤字か」、「またこんかい出すのか」、「そんなのだったらやめちまえ」と言われますよ。私はそう思いますよ。

○町長（齋藤文彦君）　だからね、私は３年間でそれなりのことはしようと思って、いろいろまつざき荘の方は努力しているわけでございます。まつざき荘の悪いことばかり言われますけれども、私が言ったような企業誘致とか、地元の仕入とかを考えると、まつざき荘というのは、まつざき町に対してものすごく貢献していると私は思います。

それに、私は、４年前ですか、全国千枚田サミットがまつざき荘で行われた時に、県知事以下、あそこで食事をしたわけですけれども、その時に痛切に感じて、これはやっぱり町が少しくらいの経費を払ってもこれはまつざき荘は維持していくべき建物だなと痛感しているところでございます。

○１番（藤井　要君）　私も町長もまつざき荘を良くしたいということは同じなんですよ。誰で

も同じなんですよ。ここにいる皆さんすべて同じなんですよ。

じゃあ、最後になりますので、これから増やしていく、その具体的な対策、町長、時間の関係で短めにお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　これは皆さんに何回も説明しているわけですけれども、その改善計画というのがございまして、１番、コスト削減、２番が宿泊利用客の増加、３番が町内利用の促進、４番が組織の強力ということで細かくやっていまして、それに沿ってみんなやっているわけですから、それなりに力を見ていただきたいと思います。

○１番（藤井　要君）　今の計画案はもう何回も聞きました。私が言っているのは、民間の力を利用して、バスで誘客してもらうとか、そういう大きなことをしなければ、なかなか改善ができないということを言っているんですよ。

自動車学校のお客さんを呼びます、お客さん、利用客が何人増えるんですか。増えていないですよね。そういうことで、次の質問に入りたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　民間がやると、民間に渡すと非常にバラ色みたいに聞こえるわけですけれども、民間は本当に自分たちの利益でいきますから、ほとんど松崎のためには私はならないと思っていますよ。

ここで言いませんけれども、第二のまるまるになるのではないかと非常に私は危惧しています。

それで・・、そんなところです。

○１番（藤井　要君）　次の質問に入ろうと思ったら、いま町長があれしましたから、これは伊豆まつざき荘の状況について、一番最後を見ますと、町長が・・、当局がわざわざくっ付けてくれてあるんですよね。これは、国民宿舎協会理事会のホテル経営者に指定管理を出されまして、合併前に２年間、合併後３年間運営されましたが最初の見込みと違って儲からないということで、契約内容も甘かったと違約金等も・・なんて書いてありますけれども、出て行ってしまったと、わざわざこういうことを書いてあるのは、消極的なことをということでこれを載せたと思うんですよ。私はですね、民間のいいところ、先ほど言った「資料を提出してください」とか、そういう力を利用して何かみえないかなと、皆さんが公営企業を撤退しているわけですね。あちこちで。そういうのを何とかしたいということでやりました。町長の答えはいいです。もう時間が・・、次に入りたいと思いますので。

それと、次に、なまこ壁の関係ですけれども、私はですね、先ほど言いましたけれども、「やろうじゃ委員会」の人たちと一緒に見て来たんですよ。かなり傷んでいますね。中に入ってみる

と、そして、この居住者、近藤さん・・、メインになりますけれども、近藤さんの所に行って、お話もしてきました。

町長は、美しい村の関係で指定するのにも住民の方というか、近藤さんあたりとお話はしてきたんですか。

○町長（齋藤文彦君）　近藤先生は、私の小学校の時の教師でございまして、近藤先生とは何回も話をしているところでございます。

○１番（藤井　要君）　最近、美しい村に入るということでいろいろなお話はしましたか。

○町長（齋藤文彦君）　近藤先生とはいろいろ話をしていますよ。

（藤井議員「どんなお話ですか」と呼ぶ）

○議長（稲葉昭宏君）　挙手をして質問してください。

○町長（齋藤文彦君）　この場ではちょっと話せないこともありますので、その辺は話しません。

○１番（藤井　要君）　じゃあ、聞くのをやめましょう。

これは、私は先生とも話をしましたけれども、あそこの蔵を見ましてもらうと、もう蔵の方はぐずぐずで落ちているんですよね。それを先ほど冒頭の質問でも行いましたけれども、町の中で、昼間、蔵らさんがあってコーヒーをちょっとやっていますけれども、観光客が来て、あそこへ、先生の家へ入っていくそうですよ。そして、中を見ているわけですけれども、そして、外に出ても何も休む所もないというようなことで、私は、蔵の中を、ちょっとボランティアのおばさんたちと言ったらおかしいですけれども、そういう人たちに手伝ってもらって、コーヒーを出したりとか、特産品をちょっと売るような場所に改良して欲しいななんて思ったんですけれども、修繕するにはかなりお金がかかりますよね。

それから、町長は、なまこ壁の町ということでやっておりますけれども、あのなまこ壁が先ほど傷んでいると言いましたけれども、お金をかけなければ、もう何年かの間に、例えば、持ち主の方がお金をかけなければ、だめになりますよ。

町長、もう少しそのことについて、先ほど町長も言いました。補助金とかいろいろあります。私は、もうメインのやつは町管理、白川郷みたいに不便をかけますから、そういう話も近藤さんと話もしました。そして、近藤さんの中には、長八のなんかもあるわけですよね。そういうのも見せてもいいと言っているんですよ。そういうところで、もっとメインの・・、例えば、そういうところは町管理、そして、例えば、通りのなまこ壁はＢランク、Ｃランクとかいって補助金を出すとか、そういうような考えはないですか。

○町長（齋藤文彦君）　藤井議員の言うことは素晴らしい・・、私もそういういことを考えている

わけですけれども、松崎町には、歴史的景観整備事業というのがありまして、中瀬邸とか、伊豆文邸の建物を保存、活用しているわけですけれども、こういうふうに保存、活用するのが、私は一番いいと思っています。

それで、近藤先生ともなかなか・・、いろいろ話をして、この場ではちょっと言えないことがあるわけですけれども、誰か本当にあそこを使って、ＮＰＯでも使って、私たちはこういうことをやりたいよというようなことがあったら、それなりに考えると思うわけですけれども、松崎町としては、松崎町の文化財に指定して、保護するようなことをやっていくのが、今は一番いいのではないかなと私は思っています。藤井さんが言うみたいにどこどこのなまこ壁を全部やれといったら、とてもお金が足りませんので、ある程度場所を決めて、文化委員会の方に指定してもらって、そのように進めていくのがいいのではないかと私は思っています。

○１番（藤井　要君）　どこもかもやれなんて言いませんでしたよね。私。Ａランク、Ｂランク、Ｃランクとかというランクを付けてやると言って、近藤さんの所はメインであるということを言いました。

それから、松崎はやっぱりよその地域に比べて歴史と文化があるんですよね。私はですね、歴史と文化の方が・・、例えばですよ、よそのいいビルができているとかという所に比べて、最終的には人口減少の中で残っていくのは、やっぱり歴史と文化がある所だと思うんですよ。その町だと思うんですよ。松崎は。

ですから、私は、大沢温泉ホテルとか、まつざき荘、そして、なまこ壁を利用して、町全体を底上げしていく、その中で癒やしの町として、よそからお客さんを呼ぶ、流動人口が今年 34 万 7100 人ですか、じゃあ、その中で私が町をぐるぐる回っていますとですね、「松崎はいい所ですね」なんてやっぱりしゃべるわけですよ。

なまこ壁に何人位の割合で見に来ていると思いますか。トレイルジャーニーは 1500 人位ですけれども、２日間として。34 万 7100 人の中で何パーセント位がなまこ壁とかという松崎の自然を見に来ていると思いますか。

○企画観光課長（山本　公君）　なまこ壁だけで何人、何パーセント来ているかということはなかなかちょっと申し上げることはできないわけですけれども、ただいま藤井議員の方からありました、観光交流客数 35 万人位が松崎町に訪れているわけですね。その方々が当然寄っていただく、あるいはインターネットのホームページなんかをご覧いただくと、なまこ壁でひくと松崎町が出て来る、最初に出て来るという形の中で、そういった意味の広告的な役割は果たしている。

それから、中瀬邸なんかを訪れるお客さんが多いわけですけれども、散策をしながら、例えば、旅行会社さんの散策のコースに入っているということで、何千人というお客さんがそれで来ておりますので、人数が何人なまこ壁で来ているかということは申し上げることはできませんけれども、やはりあることによる効果というのは非常に大きいかと思います。

○町長（齋藤文彦君）　なまこ壁というのは、松崎は、先ほど歴史的景観整備事業というのがあるわけですけれども、全国漆喰鏝絵コンクールをやっているわけですけれども、これに松崎で出品する方が３～４名しかいないわけですね。ぜひこれを私は、なまこ壁を保存、継続させるためにも、小・中・高の授業の中でそういうことができないのかなというのが、私はいま考えているところです。

それで、「日本で最も美しい村」連合に入った、その一つがさくら葉と棚田となまこ壁があるわけですから、これは松崎の本当に重要な財産だと思っていますので、これをいかに、どういうふうに継続、活用させていくかというのが、これから松崎の本当の基本にあると思いますので、藤井議員がいろいろ言ってくれましたけれども、いろいろなそのようなことを考えてやっていきたいと思っているところでございます。

○１番（藤井　要君）　じゃあ、ぜひとも町の文化財として、そういうのを早く指定したりとか、いろいろ県や国へ、いろいろなチャンネルを使って補助金対象になれるような、そういう行政の力を発揮してやってもらいたいなと。

松崎の観光を盛り上げ、そして、まつざき荘が繁栄し、大沢温泉ホテルが繁栄し・・、大沢温泉ホテルが繁栄と言っても、個人では私はきらいですけれどもね。そういうことでやってもらいたいと思います。

次にですね、ハーブの関係になりますけれども、試験販売はまだこれは継続しているのかな。

それと、予算の新商品の開発費 100 万円ほど付けてありましたけれども、これはどうなっておりますか。新商品はできたのか。

○産業建設課長（山本秀樹君）　まず、試験販売の方ですけれども、試験販売につきましては、４月から始めまして８月の末で一応終わりました。その結果、売れたのが生産した中では約 23 パーセント位が販売をしました。試供品として配ったのが 25 パーセント位ありますので、いま生産部分の残り半分位が在庫として残っております。

それから、新商品、開発の関係ですが、６月の答弁で先ほどアンケートというような話がありましたけれども、６月の時の回答では市場調査をしているというふうに回答したと思っていますけれども、その調査の結果、ハーブの方は非常に広がりはいまありますけれども、なかなか飽

和状態で、商品もいろんな商品があって飽和状態ということで、なかなかいろんな商品を作っても販売は難しいよというような結果がわかりましたので、今回ちょっと方向転換をしまして、地元の密着したハーブの使用というのを考えていこうというようなことで、その中で農業に携わる方々が生産、製品として開発したりとか、そういうことをしたり、料理に使ったりとか、観光とタイアップしたりとか、そういうような方向性をちょっと使っていこうということで、今回は商品開発の方はしばらく休もうかなというようなことになっています。

○１番（藤井　要君）　試験販売は終わったと、新商品は方向転換したということですよね。これは、なんか６次産業の方に結び付きそうですか。それとも、途中で挫折するような、ちょっと町民の皆さんの意見を聞くと、なんか挫折しそうだなと、もう本当にやっていないんだろうというような意見も聞くんですけれども、その辺はどうですか、もう少し。

○議長（稲葉昭宏君）　町長でいいですか。

○町長（齋藤文彦君）　ハーブはですね、やっぱりいろいろやってみますと非常に何と言いますかね、全国的に飽和状態ということで、新商品の開発はなかなか難しいなと思うわけですけれども、ただ、松崎町がやってみたのは、松崎町でハーブが生産できるよということを試したことだと思っています。

実は、本当は、松崎町がずっとハーブの販売に関わるわけにはいきませんので、本当はある企業が出てきて、これは面白いな、これをおれたちが継続してやろうかというようなやつが一番最高な方法だと思うわけですけれども、なかなかそこまでいきませんので、非常に苦慮しているところがあります。だけど、いま何と言うんですかね、日本ハーブ検定試験に２名の方が振興公社の方で合格しまして、いまハーブ人形・ふくちゃんとか何とかやっていますので、それに併せて、グリーンツーリズムの伊豆支部のモニターツアーなんかでハーブの畑をみてやったり、ハーブでお茶を飲んだりしたことがあるわけですけれども、何かうまい利用方法が松崎町でもあるのではないかなと私は思っています。

ある時、私がある旅館に泊まりましたら、玄関に草が敷き詰めてあって、それで私は非常に感動したわけですけれども、そうしたら、料理もやっぱりハーブを使っていろいろあったわけですけれども、そのようなことが松崎が非常に合うのではないかなと、ある程度試験栽培して、松崎町でハーブができるということがわかったので、本当に民間の企業の方とか、おれはこれをやってきたいという方が出てくれば、それなりの方向にもっていけるのではないかと思うわけですけれども、松崎町がずっとこれを販売とかなんとかというのはできないので、そのようなことを考えてぜひお願いしたいなと思うところでございます。

○１番（藤井　要君）　ハーブは日本全国どこでももうやってまして、だいたいどの辺でどういう商品がなになにに利用できるかということはわかっていたんですね。これね。やる前から。やる前からわかっていたんですよ。

でも、町長は、先ほど言いましたけれども、ハーブ牛としてやりたいということで・・、また怒られますけれども、飛び付いちゃったということなんですよね。これが、ハーブ牛はどこかへと飛んじゃって、今度は新商品に。その新商品もなかなか結び付かないということで、料理の創作の方に走り出したということでよろしいかと思うんですけれどもね。

６次産業化もやっぱり町長が言うように町でやることじゃないと思うんですね。町はやる人に後ろ、背中を押してやる、それが町の仕事だと思います。何か行政に対しても、書類を出すのを町が後押ししてやる。これが行政の仕事だと私は思っています。それはそのとおりだと思っています。

それで、今年２名が認定講座を受けたということですので、合格したということですので、この方たちを有効に利用してもらって、町の・・、香りの町ということもあります。文化と歴史と香りの町、これを一生懸命進めてもらいたいなと思います。まだハーブに関しては試験販売の結果ということで、なんかあまり評判も良くなかったということを聞いております。職員の方にも浸透していなかったと思うし、宣伝もうまくなかったと思います。

最近ですか、一週間前くらいになりますか、あのストラップ、さくら葉のストラップなんかも出てきましたけれども、ああいうのももう１カ月前くらいから店頭で販売されてましたよね。やっぱり宣伝方法が下手だと思いますよ。松崎町。

○議長（稲葉昭宏君）　藤井君、申し上げます。時間延長しますか。

○１番（藤井　要君）　延長をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君）　５分間延長いたします。

○１番（藤井　要君）　そういう点ですね。やっぱり町長、松崎の皆さん、ここにたくさんの課長の方もいらっしゃいますから、どんどん、どんどんと積極的にまつざき荘の観光、そして、依田家のそういう利用方法、いろいろと考えてやってもらいたいなと思っております。そして、そろそろ時間になりますからあれですけれども、私はですね。先ほど町長がまつざき荘の関係、振興公社で３年間やりたいということですけれども、私はずっと町の中を歩いて、本当にあれですよ。もう民間に任せて欲しいというようなことは肌で感じました。

町長は、町の中を選挙カーに乗って、肌で感じたのかもしれませんけれども、私は、自分の足で歩いて肌で感じましたよ。そういうのを 26 日にこれはありますけれども、町長もやっぱり私

は持論として、３年間じゃなくても、反対に５年間でもいいじゃないかと・・、１年１年見直す、これも必要ですよね。そういうことも必要。５年間でやっても、ここに条例がありますよね。松崎町の指定管理、手続きに関する条例、そういうようなものがあるわけですので、１年、１年みて、２年後にこれはもうだめだなと思ったら、期間延長しなくたって、もう来年いっぱいで終わりだよと、そういうことだってできるんですよね。

町長、できますよね。

○町長（齋藤文彦君）　先ほど一般質問にお答えしたわけですけれども、私は３年間と区切ったのはそれなりの決意もってやろうと思っています。私が町長でいる間にそれなりの目鼻はつけたいなと思っているところでございます。

いろいろ言われますけれども、私も町長選挙で町内を回って、いろいろ私の考えを言ったわけですけれども、私が受かったということは、「民間じゃなくて、振興公社へ委託すればいいんじゃないの」と、私はそういう支持だと思っていますので、私は自分の考えどおりにこの３年間振興公社で一生懸命やって、それなりの成果を上げていきたいなと思っています。

○１番（藤井　要君）　最後に町長は、自分が勝ったからということで、言っておりますけれども、町長、それは争点・・、町長は言いましたけれども、それが争点ではありませんよね。違いますよね。町長が、私は振興公社で３年間やると町民に訴えたんじゃなくて、私が立候補します。その中で振興公社もそのままやっていきたいということで、すべてに町長に対して投票したわけではありませんよね。

1400・・、1500 近くの方が反対票を投じておりますし、今までの町長選挙の中では 70 パーセントを切ったのは、私もあまり記憶というか、わかりませんけれども、69.3 パーセントですか、それなりに批判があったということなんですよね。私は町長の足を引っ張るつもりもありませんし、まつざき荘を黒字にもっていってもらいたい。なまこ壁も整備してもらって、民間の負担になるべくならないように、先ほど、ですから、再生産じゃないですけれども、再修理できるような提案もいたしました。

大沢温泉に関しても、私は、松崎が、例えば、無料かもしれません。有料になるかもしれません。譲り受けて、その中で再生産というか、できるような・・、あそこで、温泉もあります。そういうところを民間にワンバスなんかでもって来てもらって、そして、例えば、若手のまだお金を稼げないような芸人なんかをまつざき荘でご飯を食わせて泊めて、そして、いろいろな演芸をやらせたりとかしながら、松崎で楽しんでもらう、そういうのも私は頭の中にあります。

町長もいろいろ考えていることでしょうから、最終的な目標は同じだと思います。これから

も４年間ぶれることなく、町長の意思で、そして、真っ直ぐに行ってもらいたいなと思います。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君）　以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前１０時３３分）